

第1回枚方市新庁舎整備基本構想意見聴取会				
No	委員名	主なご意見	市の回答	基本構想等の反映
1	狩野委員	庁舎の位置は④又は⑤街区で決まったものか。④⑤街区のまちづくりの中で踏み込んで議論していくことが必要。	現時点において庁舎の位置は決定していない。再整備ビジョンの概念に基づき検討を進めており、並行して作る市駅周辺再整備基本計画の中で、まちづくりの視点を踏まえて、市として庁舎位置をどこにすることがいいのかを整理し、その検討結果を聴取会で説明していき、④⑤街区のこともあわせてご意見を受けていきたい。	—
2	狩野委員	まだ、庁舎規模が分からないのに、なぜ、現時点で隣接に高層マンションをイメージしているのか。	資料の施設配置はイメージで、これから検討する内容である。事業費を含め、事業の実現性を踏まえながら、事業の枠組みを検討する際に、イメージという形で検討の方向性を確認するための資料である。	—
3	吉川委員	行政サービスを考える中で、新庁舎の配置と併せて、庁舎機能を分担して駅前にサテライトを設けることも考えていくことが必要。	—	行政機能の再編(③街区)について記述
4	石川委員	現状解決だけではなく、社会背景(将来人口等)を踏まえて構想を策定すべき。そのためには、市駅周辺再整備基本計画の検討過程について情報共有が必要。	市駅周辺再整備基本計画の検討内容について、聴取会で適宜ご報告をさせていただきます。	社会背景に伴う本市の課題について記述
5	狩野委員	現庁舎の待合スペースでは、立って待っている人もいるなど、大混雑の状況を是非改善しないとイケない。	—	平成30年度、庁内で総合窓口機能について検討中
6	池内委員	庁舎位置については、ワークショップでも意見を求めるべき。	ワークショップの中で、庁舎位置についても可能な限り触れていく。	ワークショップの中で、庁舎位置に係る内容として駅前の窓口機能について触れた
7	池内委員	関連計画の中でも、全てに整合するのではなく、関連計画を見直すことも含めて検討すべき。	行政計画については、必ずしも整合を取るとは考えておらず、柔軟に検討していく。	—
8	池内委員	一気に市庁舎を建て替えて集中と分散を図ることはすごく大きな方向なのでしっかりと行うべき。その際、庁舎に関しては、新耐震設計法に基づく1.5倍の重要度係数で設計することが必要。	—	耐震性能(通常基準の1.5倍)について記述設計にて具体的な検討を行う

第2回枚方市新庁舎整備基本構想意見聴取会

No	委員名	主なご意見	市の回答	基本構想等の反映
1	池内委員	機能面では、網羅的なサービス向上によるコスト増加が懸念される。付帯機能は可能な限り民間に委ねるべき。	付帯機能のコスト抑制策として、民間のノウハウを活用して整備する考え。	事業手法に民間活用の手法について記述
2	吉川委員	庁舎のシンボル性は、デザインや高さ、規模に限らず利用者の精神性に拠るところもある。市の歴史や文化を発信する機能を備えることで愛着心にもつながる。	庁舎のシンボル性など特有機能は、景観や環境面からも枚方市特有の良さを感じられるとともに、市民が誇れる拠点の形成をめざし、市の歴史や文化など様々な情報が得られるよう情報発信コーナーを設ける考え。	交流機能(情報コーナー)を設けることについて記述
3	吉川委員	庁舎として当然達成すべき機能と将来目指すべき機能の両輪で考えるべきで、将来に向けてのメッセージ性やターゲットを明確にするべき。	今後の社会環境が変化していく中で、基本方針に基づき将来にわたり効果的・効率的に行政サービスを提供していく拠点として整備する考え。その上で、交流機能や付帯機能など市民に広く利用していただく機能を整備する考え。	新庁舎に導入する機能について記述
4	池内委員	災害時には活動スペース、平常時には市民の交流イベントなど、多目的に活用できるスペースを設けることは非常に有効。	災害時の活用も見据え平常時は、市による啓発活動や情報発信など市民交流が図れるよう、1階に多目的スペースとしてまとまった空間を確保し、市民同士や市民と職員が気軽に談話できる市民交流スペースを設ける考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
5	池内委員	駅前窓口を充実する場合、本庁舎で扱う業務の整理は必要であるが、婚姻届や相談を伴う手間の掛かる手続きなどは本庁舎に来庁することが予想できる。	本庁舎、市内各支所及び駅前窓口の各機能について、本市の地形や状況、市民の利用ニーズに応じた役割分担を行うとともに、本庁舎での行政サービスの満足度を高められるよう市民窓口の充実を図る考え。	運営面での対応を検討
6	池内委員	総合案内を充実させることで、来庁者の目的がスムーズに達成し、市民満足度の向上につながる。	今後、具体化の検討を進めていく中で参考とする。	運営面での対応を検討
7	池内委員	災害時の拠点施設の考え方について、バックアップ施設（輝きプラザきらら・南部生涯市民センター）の老朽化が進んでいくため、新庁舎整備に併せて本庁舎とバックアップ施設の関係を見直す必要がある。	新庁舎整備後の本庁舎とバックアップ施設の関係は、枚方市市有建築物保全計画などの関連計画も踏まえて、必要に応じて検討していく考え。	防災機能の強化と併せた運営面での対応を検討
8	吉川委員	民間のオフィスレイアウトを採用するなど執務室はスリム化を図り、建設コストを抑えた庁舎としつつも、市民のために特徴的な機能を充実させるなどのメリハリが必要。	執務面積は必要最小限としつつ、現状不足している災害関連機能や会議室などは拡大する方向で独自調整する。一方で、市民サービスの向上を目的とした総合窓口や多目的スペースなどの機能を拡充するなど、メリハリを持たせつつ建設コストの抑制を図る考え。	新庁舎規模の更なる縮小について記述
9	吉川委員	庁舎内のサイン計画次第で来庁者の負担は削減できる。さらに、まちと庁舎が一体的につながるサイン計画が望ましい。	枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して一体的なまちづくりに努める。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述

10	武委員	ICTの活用により市民サービスの向上や職員の業務効率の向上を図る考えと併せて、社会福祉の観点から、ICTの利用に困難を抱える方に対する配慮も必要である。	あらかじめ、能力の違い、年齢、性別、国籍等に関わらず、多様な人々が利用しやすいように考えて、都市や生活環境をデザインすることというユニバーサルデザインの観点をハード整備だけでなく、窓口サービスや行政サービスの提供に取り入れていく考え。	基本方針(高齢者や障害者など利用者しやすいユニバーサルデザイン)について記述
11	武委員	南海トラフ地震などの大規模災害の発生が予見されていることを踏まえると、行政機能の集約が良いのか、分散化が良いのか整理しておく必要がある。	枚方市駅周辺などに分散している庁舎機能を必要に応じて集約することで、効率的・効果的な行政運営を進めるとともに、あわせて災害対策の充実を図る考え。	庁舎機能を集約する考え方(リスク分散の観点を踏まえた集約)について記述
12	武委員	基本方針の説明の中で「ユニバーサルデザイン」とあるが、誰を対象にしているのかをもう少し分かり易く表現する必要があるのではないか。	高齢者や障害者など利用者を対象していること明確にする。	左記のとおり修正
13	武委員	庁舎内に附帯機能を集約しすぎると、周辺のまちが衰退する恐れがある。全ての機能を庁舎に集約するのではなく、主要機能だけを集約した方が良いのではないか。	附帯機能として現時点で想定している銀行ATMやコンビニエンスストアなどについては、過大とならないよう、庁舎規模のコンパクト化やコスト負担の抑制を念頭に置きながら、民間のノウハウを活用して整備する考え。	附帯機能、庁舎機能を集約する考え方(③街区、既存施設などと連携した集約)について記述
14	石川委員	社会背景の整理の中で、庁舎を含む枚方市駅周辺(中心市街地)とその他市域とで地域格差が生まれること、それを踏まえて、本庁舎と支所などの行政連携などについて触れておくべき。	支所業務については、枚方市駅周辺再整備や新庁舎整備の検討内容などを踏まえて、今後検討していく考え。	運営面での対応を検討
15	石川委員	社会経済環境の変化が大きい中で、将来、市民サービスに対する変化が予測されるが、どのような動きになるのかは不透明であるが、行政と市民の関係以外にも、行政と企業、企業と市民などの交流や活動も多様化していくので、固定化しないスペースを設けることが望ましい。	災害時の活用も見据え平常時はイベントなど市民交流が図れるよう、様々な用途に柔軟に活用できる多目的スペースを1階に設ける考え。	多目的スペースについて記述 基本計画・設計にて具体的な検討を行う
16	石川委員	まちの回遊性の向上と併せて、市駅周辺全体のまちづくりと連携し、楽しく歩ける(苦にならない)空間を整備していくことが、健康の視点からも重要になる。	枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して一体的なまちづくりに努める。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
17	石川委員	基本方針や機能に掲げた内容について、ハードとソフトどちらで解決するのか整理しておいた方がよい。	枚方市新庁舎整備基本構想の中で掲げる基本方針や機能については、ソフト面での対応していく内容を追記する。今後、具体化の検討を進めていく中でハードだけでなくソフトの充実や、ハード・ソフトを連携させてより良い庁舎整備につなげていく考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
18	石川委員	アンケートのクロス集計について、10歳代~30歳代、40歳代~50歳代、60歳代~80歳以上の3区分の傾向も掴むことが出来るのではないか。	アンケートのクロス集計について、3区分の傾向を掴むため追加分析する。	新たにクロス分析を行い、HP等にて公表

19	狩野委員	今後、現庁舎跡地が駅周辺の活性化につながる観点からも、庁舎は今よりも遠い方が良い。その際には、現在よりも駐車場台数の増加が必要。ただし、高層マンションに囲まれるようなまちづくり計画では駄目。まちづくり計画には、①街区から⑤街区全体のランドスケープとして広域的な視点で考えていく必要がある。	新庁舎整備位置については、国・府と連携協力して⑤街区を基本に検討をするとしているが、現在、枚方市駅周辺再整備基本計画を策定していく中で、全体のまちづくりを踏まえながら、幅広い視野をもって比較検討していく。	来庁者用駐車場の計画台数を現本庁舎の2倍確保 市駅周辺再整備基本計画にて土地利用計画・施設配置計画を記述
20	狩野委員	市民ニーズは、ますます多様化・複雑化が進展する中で、市民一人ひとりの満足度が求められ、人口が減少しても行政の業務量は減少するとは限らない。行政の対応も専門化していくことが必要となるため、任用も複雑になり職員数は増えるとも考えられる。そのため職員の労働環境を改善するため、一人当たりの執務環境は余裕をもって設けるべき。	想定職員数の考え方の要因に、多様化・複雑化する市民ニーズへの対応を挿入するとともに、職員一人当たりの適切な執務面積を検討する考え。	国交省の基準3.3㎡/人(一般職)を想定。
21	狩野委員	市民が広く利用し、庁舎の顔となるエントランスやロビー、トイレの充実は必須であり、その分の面積は見込むこと。例えば、エントランスやロビーは明るく、開放的な空間とし、入口から入ると特有の印象により一瞬の感動を与えられることが重要。近代的またはレトロ(ステンドグラスの使用など)な印象を与えるものが良い。また庁舎の価値を高め、職員にとっても業務意欲が向上させるためにもトイレは超近代的なものとするべき。	トイレや待合いなど、市民が多く利用される機能を充実させる面積を確保していく考え。また、来庁者に好印象を与えられるよう、今後、具体化の検討を進めていく中で参考とする。	新庁舎規模の算定面積に反映
22	狩野委員	まちの発展のために機能を分散させる考えは重要である。そのため部署をある程度まとめて、効率的な体制とするべきであるが、全ての部署をまとめる必要はない。行政手続きを一箇所の窓口で完結させるのは理想ではあるが実現は困難である。行政部署はそれぞれが独立した部署であり、市民が利用目的に応じて行動(移動)するものである。そのため、ワンストップの実現を図ることよりも市民の待合い時間を短縮化するための行政執務間のスムーズな連携体制を構築することが現実的である。	新庁舎では、市民ニーズが多様化・複雑化していく中で、これまで以上に組織(部署)を横断した取り組みが必要となるため、意思疎通を速やかに図れるよう、分散している庁舎機能をできる限り集約する。しかし、業務の中には、取り組み内容の独立性が高く、現在の配置においても特段の支障をきたさない部署や市民の利用促進の観点から、集約化が好ましくない部署については、庁舎機能の集約の対象から外す考え。また、窓口サービスの向上を図るため、総合窓口などの検討を進めていく中で参考とする。あわせて、市民の待合い時間を短縮化するための行政執務間のスムーズな連携体制の構築を継続的に努めていく。	可能な限り集約する考え方を記述、市民窓口については基本計画・設計にて具体的な検討を行う
23	狩野委員	図書館は市駅周辺にあっても良いが、庁舎の近隣に、史料館や図書館が整備されることにより市のグレードが高まる。また、飲食は、史料館などで提供してもよい。議会図書室というよりも、市民利用を見据えたことに配慮することが必要。	枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して図書館機能の充実に向けて検討する。また、議会図書室については、市民利用の促進が図れるよう検討する。	③街区に図書館機能を再編
24	狩野委員	庁舎周辺の環境整備として、中低木の植栽やベンチを配置してが憩いの場を創出するべき。また、安全で快適に歩けるまちというのは魅力が高まるので、「歩きたくなる歩行空間」の整備が必要。そのためには、車道と歩道は完全分離が必要。	庁舎周辺の環境整備や歩行空間については、枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して検討する。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述

25	狩野委員	庁舎における案内表示や掲示板の方針を検討し、市民にわかりやすくすべき。	利用目的に応じた担当部署や行政からの案内などをホームページを通じて情報提供するなど市民にわかりやすい案内に努めるとともに、誰にでもわかりやすいサイン計画の作成や情報案内板の提供に向けて検討する。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
26	狩野委員	利用者の多い福祉関連部署の待合スペースを充実させるとともに、待機時間を有効活用できる工夫が必要。例えば、ポケベルでの呼び出しサービスなど。	申請窓口や相談窓口の多い部署の待合スペースの充実とあわせ、待ち時間の短縮につながる取り組みを検討する。	運営面での対応を検討
27	狩野委員	庁舎には災害対策本部機能として重要な役割ではあるが、今回の震災を踏まえると、災害対策本部と避難所との意思疎通体制や本部の状況判断などが現場では大きく影響することがわかった。災害対策には災害対策本部室や設備の拡充以上に、被災時の迅速な初動体制と長期的な災害復旧にも対応できる人員体制を充実すべき。	災害対策機能として必要な機能や活動スペースを確保する考え。また、迅速な初動体制や長期的な災害復旧にも対応できるソフト面での充実に向けて努める。	防災機能の強化と併せた運営面での対応を検討
28	狩野委員	基本方針1にある「安全・安心」を庁舎が支えるという表現は、他の基本方針と比べるとわかりにくい。支えるのは、安心で安全な市民の暮らしを支えるという表現であれば伝わるのではないか。	基本方針1を安全・安心なくらしを支える庁舎に変更する。	左記のとおり修正
29	狩野委員	基本方針5にある「経済性」とは市全体にかかるものであり、庁舎単体で実現するものではない。行政事務が効率的で機能的に対応できることが重要。また、効率的・経済性を基本方針に掲げる場合、防災システムや環境の整備には一定の費用がかかるため、新庁舎の経済性とは相反する考えになるので整理が必要。	基本方針5を効率的で機能性に優れた庁舎に変更する。	左記のとおり修正
30	狩野委員	自助グループが活動に使用する会議室は、ラポールやメセナを活用し、新庁舎内に設置する必要はない。	新庁舎の会議室は行政の執務機能として設ける考え。	—
31	狩野委員	情報通信技術の高度化については、枚方市が今後、どのようにICTを活用していこうとしているのかを説明することが重要。ただし、ICTの進展に併せて、セキュリティやシステム変更の対応、維持管理に係る費用等は増大することを留意しておく必要がある。	本市では、市民等の利便性の向上や情報の公開と共有を目標に定めた、「第2次枚方市情報化計画」を平成28年に策定し、市民等が行政サービスの電子化によるメリットを実感できるよう、必要となるシステムの整備や、情報発信手段の拡充などによる情報発信を進めていることから、記載内容の見直しを行う。	左記のとおり修正
32	狩野委員	市駅周辺再整備の一環として、建設される総合文化センター、関西医大、新消防庁舎、ラポールやメセナなど、市駅北側への人の往来が増加するなか、枚方市にとって非常に重要な歴史的背景がある枚方宿の街道は、石畳と風情ある灯りを整備することで回遊性を高めていくべき。（特に新町地区において）	本市としては、この地域に存する枚方宿などの歴史的・文化的な街並みは、重要な地域資源の一つとして認識をしており、市駅周辺の魅力を高めていくため、ご意見については、関係部署間で情報共有を図り、今後の取り組みに役立てる考えです。	市駅周辺再整備基本計画にて土地利用の方向性を記述

第3回枚方市新庁舎整備基本構想意見聴取会

No	委員名	主なご意見	市の回答	基本構想等の反映
1	吉川委員	国（税務署）との運営方法によっては、エントランスや待合いスペースなどが共有できるのか、それぞれが単独で確保するのかによって面積も左右するので調整が必要。	本市としては、国との合築を検討していく場合、例えば、エントランス・ロビーや多目的スペースなどの共同利用していく機能の検討を行い、面積や整備費の縮減につなげていく考え。	合同庁舎化による規模の縮減について記述、基本計画・設計にて検討・反映
2	吉川委員	多目的スペースは、常時・非常時の用途以外にも、年間通して用途の時期が重なることも視野に入れた整備とすること。諸室に専門性を持たせるほど他への転用が難しくなる。	多目的スペースの具体化に際しては、定期的に使用する用途をあらかじめ想定し、使用時期の重複や不都合が生じないように柔軟な対応ができる運営を想定し、施設の仕様の具体化を目指していく考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
3	吉川委員	執務室は、市民応対を中心の部署と内部事務が中心の部署では、市民へ提供するサービスの内容が異なるので、配置フロアやレイアウトには留意すべき。	市民利用を中心とした手続き関連部署、内部系部署、事業者が来庁する部署など、来庁目的別に応じた部署間の関連を踏まえたうえで、来庁者の移動を円滑にする最適な窓口配置やレイアウトを検討していく。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
4	吉川委員	庁舎位置は⑤街区での庁舎が望ましい。駅近くの資産価値の高いエリアに効果的にみどりを配置しながら商業・業務・居住施設を配置して誘導を行うことが都市環境や都市空間の考え方に合致している。	庁舎位置については、ご意見を参考に枚方市駅周辺再整備基本計画の中で、まちづくりの観点から検討していく。	市駅周辺再整備基本計画にて土地利用計画・施設配置計画を記述
5	吉川委員	新しい道路がまちを分断して回遊性が失われる懸念があるので、公園・商業施設と住居エリアとの一体性が重要となる。歩行レベルの連続性を実現することで、よりまちの魅力が高まると考える。	民間活力の導入により、商業施設や居住施設の整備とあわせて、まちの賑わいにつながる公園・広場を中心とした、一体的なまちづくりを実現させるためにも、区画道路により、まちの分断を感じさせないように歩行者が快適に回遊できるような歩行空間を検討していく。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
6	池内委員	市民利用を想定した多目的スペース以外にも、内装はシンプルでもよいので、職員が多目的に使用できるスペースを設けておく和良好的。また、防災面からもできる限り大きな空間の会議室を設け、パーティションで分割できるようにするのが良い。	職員が利用する会議室については、将来の臨時組織の執務や災害対応など様々な利用目的も想定して可変性を持たせる仕様を検討する考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
7	池内委員	窓口の待合いには、携帯電話等による呼び出しシステムの実施や予約制の導入により、待合いの省スペース化や待合時間中に他所（情報スペースや多目的スペース、屋外など）で時間を有効利用できる。	申請や相談の多い窓口部署の待合いスペースの充実や総合窓口の検討とあわせて、待ち時間の短縮や有効利用につながるようICTの活用などの手法を検討する。あわせて、一度の来庁における複数窓口での申請に伴う時間短縮を図るための関係部署のスムーズな連携体制の構築を継続的に努めていく。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
8	池内委員	災害対応の視点では、保健所とひらかた病院が連携することはメリットがあるが、一方で庁舎・保健所が分散するのは連携上の問題があるので、運用面での対応を検討する必要がある。	災害時の医療対策については、迅速な対応が図れるようICTの活用などにより運用面での対応に取り組む考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う

9	池内委員	災害を想定した場合、⑤街区までのデッキや各施設と連携して、多機能トイレなどの市民利用機能を分散配置することを検討してはどうか。災害対策的にも庁舎は駅から少し離れた配置して滞留スペースを設けることが有機的であり、まち全体で帰宅困難者の受け入れを想定しておくこと。	帰宅困難者の受け入れについては、ご意見を参考に枚方市駅周辺再整備基本計画の中で充実に向けた検討を行なう考え。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
10	池内委員	新庁舎の低層階にはコンビニを設け、災害時の流通備蓄とすることを防災計画で位置付けるのが良い。	庁舎に設ける予定のコンビニについては、民間の活力を最大限に活かし、災害時の対応も可能になる方向で検討する考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
11	池内委員	庁舎位置は⑤街区とし、④街区では文化度が高い機能を集積した方が良いのではないかと。例えば図書館や子育ての拠点、さらには、福祉・高齢者サービスなど、高齢化を想定したサービスが必要ではないかと。一方③街区では、非日常的な賑わいや動きのある施設が想定される。	高齢化を想定したサービスについては、誰もが安全・安心・健康に暮らせるためにも、市民生活に必要な機能が揃った利便性の高いまちを目指すとともに、広場や公園を活用したゆとり空間や健康活動空間などの充実を図る考え。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
12	池内委員	④街区のレジデンスには、高齢者が入居する可能性が高い、子育て世代でも共働き世帯になる。低層階に子育て施設を設けても共働き時期は良いが、入居者の入れ替えが無ければ10年後には不要施設となる。	④街区に導入する機能については、まち全体に好影響が期待できるものを取り入れていく考えであるが、将来的な民間事業者の事業採算性や社会的な要請なども踏まえて、持続的にまちが発展できるエリアマネジメントを構築する考え。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
13	池内委員	南側ロータリーの真ん中に緑化空間を設けることで岡東中央公園までの連続性ができる。	市駅から庁舎までの歩行空間の確保とあわせて、みどりの連続性を意識したまちづくりを目指していく。	市駅周辺再整備基本計画にて土地利用計画・施設配置計画を記述
14	石川委員	庁舎機能の集約と駅前との機能分担の考えは理解できるが、枚方市の地の利を活かして、歩行空間、回遊性のコーディネートが必要。そのためにも歩行者と車との分離による安全性を確保した歩行空間が必要。車に依存しないまちづくりを枚方市が先駆的に目指すべき。	庁舎周辺の環境整備や歩行空間については、枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して検討する。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
15	石川委員	窓口の集約化による行政サービスの向上を実現するには、利用者の移動動線を明確にする必要がある。	総合窓口の検討とあわせて利用目的に応じた受付窓口について、誰にでもわかりやすいサイン計画の作成や情報案内板の提供に向けて検討する。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
16	石川委員	障害を持たれている職員にも配慮した、働きやすい環境を実現するために面積を確保する必要がある。例えばオフィスにゆとりを持たせることも必要ではないかと。	執務室にはユニバーサルレイアウトを前提に、職員一人ひとりが快適に感じられるよう、机の配置や通路など多様性を持たせたレイアウトの工夫を検討していく。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う

17	石川委員	庁舎の位置については土地利用的にも⑤街区として、あらゆる機能を駅前に集約するのではなく、④街区では、みどりを活用した土地利用を中心に、駅に降りた時の開放感や快適性を大切にすべき。近年は駅前集約型のまちづくりが主流であるが、枚方市では、健康をテーマに歩けるまちとしてゆとりを持たせたまちづくりを進めることを検討してはどうか。そうした際に新しい道路で、まちが分断されるように見えるので工夫が必要と思う。	庁舎位置については、ご意見を参考に枚方市駅周辺再整備基本計画の中で、まちづくりの観点から検討していく。	市駅周辺再整備基本計画にて土地利用計画・市説配置計画を記述
18	石川委員	広場の運営に民間活力を導入して、エリアマネジメントを行ってもらうことは重要。行政は土台作りを行い、事業者や市民がまちをマネジメントすることにより、駅前の魅力が高まる。他の地域との差別化により、まちの価値を高める仕掛けが重要。	枚方市駅周辺再整備に係るエリアマネジメントについては、ご意見を参考に枚方市駅周辺再整備基本計画の中で検討していく。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
19	武委員	書庫の効果的・効率的な整備については、庁舎内外に書庫を確保するといったハード的な対策だけではなく、管理体制やシステムの抜本的な見直し、職員の意識改革もあわせて検討すべき。	既存施設の有効活用等による書庫スペースの確保とあわせて、文書管理の徹底・文書量の見直しにより保管状況や保管量の適正化に努めることで、庁舎規模の適正化につなげていく。	文書管理システムの再構築などによる文書量の削減を記述
20	武委員	新庁舎では災害対策にかかる機能を強化していくこととしているが、今回の震災の経験を新庁舎整備における機能や必要な対策に活かすこと。	今後、防災拠点機能の強化に向けた具体的な検討を進めていく中で、大阪府北部地震での経験も踏まえ、災害発生時において速やかな対応が取れるよう危機管理体制の強化を目指す考え。	防災機能の強化と併せた運営面での対応を検討
21	武委員	⑤街区に新庁舎を整備する場合、現本庁舎の駐車場台数を増加することは良い考えであり、その際、市庁舎の利用者に限定するのではなく、市駅中心部への車の流入を軽減するためにも集約駐車場として、24時間365日利用できることを想定した運用を検討する必要がある。	来庁者駐車場については、基本的に来庁者の利用を想定しているが、市駅中心部への車の流入の軽減といった考え方や枚方市駅周辺再整備の検討内容等も踏まえて、運用を検討する考え。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
22	武委員	⑤街区の庁舎位置が市駅からの距離が少し離れるため、雨天や高温日は高齢者などには負担が生じることも予測されるので、駅から庁舎までの間に休憩できるスペースなど快適な歩行空間の整備をまちづくりと連携して検討すべき。	新庁舎までの歩行空間については、枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して一体的なまちづくりに努める。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述
23	武委員	現在分散している行政機能の集約は、市民の利便性の点から望ましい形ではあるが、一方で、公共施設のマネジメントの観点から既存施設の有効活用や危機管理面からは、災害時には対応が市内全域に及ぶため、迅速に現場対応できる機能分散の考えも必要となるため、集約については慎重に検討する必要がある。	分散している庁舎機能を必要に応じて集約することで、効果的・効率的な行政運営を進めるとともに、あわせて災害時の迅速な対応が取れるような災害対策の充実を図る。	防災機能の強化と併せた運営面での対応を検討

24	狩野委員	高齢者や障害者などが多数利用される窓口への案内や誘導をよりスムーズに行えるよう、手続きの状況や目的の行き先が一目でわかる電光掲示板をロビーに設置するとともに、窓口フロアは、目的別に色彩を使用することで利用者を直感的に誘導できる空間づくりを行うべき。また、窓口は一列配置を基本とする方がわかりやすい。	今後、具体化を進めていく中で、ご意見を参考に市民の利便性などを高めることができるようなロビーや窓口の空間づくりについて検討していく考え。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
25	狩野委員	現状の利用状況を踏まえ、④街区にはイベントを中心とした多様な交流を生み出す空間とし、⑤街区での新庁舎の前広場で若者がスケートボード等をする恐れもあるので、極力シンプルな広場にして荘厳な空間とするべき。多目的スペースでは、各種団体が自主活動に供することを目的とするのではなく、市の行事や事業、市民手続きなどのための利用とし、運用ルールを明確にすべき。また、現在の庁舎では、イベントなどのポスターやチラシの掲示が無造作に掲げられているが、新庁舎では、すっきりとした空間を基本とし、掲示方法や場所は制限するべき。	④街区と⑤街区の広場の整備内容や活用については、ご意見を参考に枚方市駅周辺再整備基本計画の検討や、その後、具体化の検討を進めていく。 多目的スペースについては、市による臨時窓口、啓発活動、情報発信や災害時の活用など様々な観点から、運用方法を検討していく。また、誰にでもわかりやすい情報案内板の提供に向けて検討していく。	基本計画・設計にて具体的な検討を行う
26	狩野委員	今回の震災では、災害対策本部で決定した最新の情報が各避難所へ伝達されていないことを改善すべきである。その上で、新庁舎では災害対策本部室を設け、避難所と双方向で情報共有できる設備を導入すべき。新庁舎は防災拠点として物資の受入れと統制機能に特化すること。また、今回の震災で開設できなかった福祉避難所の機能を発揮するためには、庁内の部署の連携強化や避難所の運用ルールの見直しも必要となる。	大阪府北部地震での経験も踏まえ、防災機能の拡充や避難所との迅速な情報共有を可能とするために必要な検討を行い、災害発生時において速やかな対応と対策が取れる防災拠点としての整備や危機管理体制の強化を図る考え。また、地域防災計画に基づき、災害対策本部機能を発揮できるよう新庁舎を整備する考え。	防災機能の強化と併せた運営面での対応を検討
27	狩野委員	コンビニ設置に伴う飲食については、内包的に庁舎内での飲食を促進することを想定するものではなく、施設前広場のベンチや緑のゾーンなどのくつろげる空間との一体的な利用を前提にしていくべき。	飲食コーナーを設けたコンビニエンスストアなどの民間附帯機能については、庁舎内での飲食による利用や庁舎前の広場空間との一体的な利用等を含めて、当該機能の考え方を整理し、今後、具体化の検討を進めていく考え。	施設前広場の運営面での対応を検討
28	狩野委員	⑤街区に新庁舎を提供する場合、これまで以上に車利用者が増加すると考えられる。駐車場126台では、入庫待ちによる新庁舎周辺での路上駐車などが、これまで以上の影響が予測できるため計画台数を増加すべき。なお、増加台数の検討には他市を参考とするべき。	駐車場の計画台数について、新庁舎整備後の車利用者の増加や入庫待ちによる路上停車等の影響を考慮しながら、来庁者用駐車場の計画台数を見直す。	来庁者用駐車場の計画台数を現本庁舎の2倍に見直した
29	狩野委員	⑤街区の庁舎配置は、駅からの視認性が確保できる位置に構えるとともに、市駅から新庁舎まで至るアプローチは、歩きながらほっとできる雰囲気を生み出すための歩行空間を整備するべき。	庁舎位置については、ご意見を参考に枚方市駅周辺再整備基本計画の中で、まちづくりの観点から検討していく。また、市駅から新庁舎まで至るアプローチについては、枚方市駅周辺再整備基本計画と連携して一体的なまちづくりに努める。	市駅周辺再整備基本計画にて導入する都市機能の方向性を記述

30	狩野委員	<p>新庁舎では、市民の利便性の向上を最大目的として計画することが重要。将来の人口減少を見据えて、できる限りスリムな庁舎とするべき。市民が日常訪れることが少ない教育委員会は集約の対象に含める必要はない。行政間の打合せや連絡には、新庁舎に導入するICTを最大限活用して、輝きプラザきららの連携強化を実現するなど先駆的な考えを取り入れるべき。</p>	<p>既存施設の活用やICT基盤の充実等を行うことで、規模の適正化を図っていく考え。</p>	<p>庁舎規模の更なる縮減について記述</p>
31	狩野委員	<p>庁舎や施設前広場は北側に面していることから、施設配置を考慮した自然光を採り入れて明るい印象を与えられる工夫をすること。また、枚方市のシンボルの「柳・菊・桜・カワセミ」をあしらった採光ガラスなどを使用することで、ロビーに入った瞬間に「枚方らしさ」を感じることができる。</p>	<p>今後、具体化を進めていく中で、ご意見を参考に市民の利便性や職員の快適性を高め、また、枚方市特有の良さを感じられる庁舎とするため、配置計画を含めて検討する考え。</p>	<p>基本計画・設計にて具体的な検討を行う</p>